

うら山にすむアリジゴクのひみつ

錦町立一武小学校 5年 岡村 茜里

1 研究の目的

うら山の林道を歩いていると、すりばちのような穴をいっぱい見つけた。父に聞くと、アリジゴクの巣ということで、興味を持った。そこで、次の(1)～(5)のような目的で観察や実験をすることとした。

- (1) アリジゴクの巣がうら山のどんな場所につくられているかを調べる。
- (2) 捕まえたアリジゴクの体のつくりや色などを観察し、詳しく調べる。
- (3) 箱にアリジゴクと土を入れ、飼育しながら巣の変化の様子を調べる。
- (4) アリジゴクの巣へアリなどが入ってきたときの反応の様子を調べる。
- (5) アリジゴクの巣が崩れたときなど、巣を作り直す様子について調べる。



図1 捕まえたアリジゴク

2 研究の方法

- (1) うら山のアリジゴクの巣が多い場所の条件を観察し、写真やノートで記録する。
- (2) 捕まえたアリジゴクの体をルーペなどで観察し、写真やスケッチで記録する。
- (3) 捕まえたアリジゴクを土の上に放し、その後どのように巣を作るかを写真やスケッチで記録する。
- (4) アリジゴクの巣にえさとなるアリや他のアリジゴクが入ったときの様子を写真で記録する。
- (5) アリジゴクが作った巣が崩された後のアリジゴクの行動等を写真で細かく記録する。



図2 箱につくられた巣

3 研究の結果

- (1) 林道の風通しの良い場所で、アリ等が多く見られる乾燥した土にすりばち状の巣を作っていた。
- (2) アリジゴクはウスバカゲロウの幼虫であり、足6本と大きな2本のアゴを持っていた。
- (3) アリジゴクは、土の表面を円を描くように動きながら掘り進め、すりばち状の巣を作っていた。
- (4) 巣にアリが入ってくると、底にいるアリジゴクは土砂を飛ばしてアリを下まで落として捕まえていた。
- (5) 巣に他のアリジゴクを入れると、入ったアリジゴクが急いで穴を掘って逃げる姿があった。
- (6) 箱で飼育したアリジゴクも巣を作ったが、巣の位置はどんどん移り変わる様子が見られた。
- (7) 林道にアリジゴクを何度も捕まえに行く中で、巣の底にウスバカゲロウのサナギも見つけられた。

4 研究の考察・まとめ

- (1) 林道のアリジゴクの観察から、アリジゴクは巣を作りやすいサラサラの土で、しかもエサとなるアリやワラジムシ等が多いところに巣を作り、また巣が集まっていることが分かった。
- (2) アリジゴクの体の特徴として、クワガタムシのような大きなアゴがあった。このアゴを使って、土砂を飛ばしてアリを巣の底に落としたり、落ちたアリをアゴではさんだりしていた。
- (3) 巣は、土の表面から円を描くように作っていた。後方に進みながら土を掘り進め、不要の土砂はアゴで巣の外に飛ばしながらすりばち状の巣を作り上げていった。
- (4) 巣にアリが入ってくると、アリが崩した土砂で底のアリジゴクは気づき、土砂を飛ばしてアリを底まで落とそうとしていた。アリにぶつけて落とすために、時には大量の土砂を飛ばしていた。
- (5) 巣に別のアリジゴクを入れると、入ったアリジゴクはしばらく動かないが、その後素早く動いて穴を掘り、逃げ出す様子が見られた。
- (6) 箱に飼育したアリジゴクも巣を作ったが、巣の位置がどんどん移り変わっていた。これはアリジゴクどうしにも縄張りがあるのかも知れないと考えた。
- (7) 林道で、崩れた巣の底を探ると、土の塊があり、その土をはぐとウスバカゲロウのサナギが見られた。